

令和2年10月20日

江東区教育委員会
教育長 本多 健一朗 様

これからの図書館サービスとこども読書活動のあり方懇談会
座長 小泉 公乃

これからの図書館サービスとこども読書活動のあり方の検討結果について（報告）

江東区これからの図書館サービスとこども読書活動のあり方懇談会設置要綱（令和2年4月1日付2江教図第122号）にて設置された、江東区これからの図書館サービスとこども読書活動のあり方懇談会（以下、「懇談会」という。）における検討結果について下記のとおり報告いたします。

記

1 はじめに

情報技術と社会環境の変化により、区民が生活していくうえでの課題は多様な領域に及んでいます。区民の生活における課題解決のニーズの一部は、身近な《知と情報の拠点》である図書館への多様な要求として顕在化しつつあります。そして、図書館はこの変わりゆく区民の多様なニーズに対応するために、21世紀にわたり通用する新しいサービスを創造していく必要があります。

本懇談会では、図書館関係団体、利用関係者、公募区民という委員のそれぞれの立場や経験から、これからの図書館サービスとこどもの読書活動における今後のあり方や方向性がどうあるべきか、意見を出し合い活発に議論いたしました。

今後、（仮称）江東区立図書館ビジョン（以下、「図書館ビジョン」という。）および第三次江東区こども読書活動推進計画を策定される際の一助とされることを希望します。

2 検討の経過

（1）懇談会開催日程等

開催日	内容
令和2年 7月14日	第1回懇談会 ・これからの図書館サービスとこども読書活動推進の方向性やあり方について意見交換
8月18日	第2回懇談会 ・「利用しやすい図書館」「生涯学習を支援する図書館」「地

	域に根差した図書館」の各項目において必要な図書館サービスに対する意見交換
10月20日	第3回懇談会 ・検討結果とりまとめ

(2) 検討の内容

「江東区立図書館あり方検討について」で示された、目指すべき図書館像である「利用しやすい図書館」「生涯学習を支援する図書館」「地域に根差した図書館」を3つの柱とし、その実現のために必要と考えられる取り組みについて検討いたしました。

(3) 検討結果（報告）

全3回にわたる懇談会での議論を踏まえ、図書館ビジョンおよび第三次江東区こども読書活動推進計画を策定する際に必要な視点を以下のとおりまとめました。

利用しやすい図書館

○情報発信について

- ・情報発信の基盤であるホームページについては、ブックリスト等のオンライン対応が可能なコンテンツをホームページ上で公開し、図書館の資源を効果的に活用できるアクセシブルな環境整備に努める。さらに、各図書館（中央館・地域館）の特徴を区民に対してアピールするなど工夫が必要である。ホームページの環境整備は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、自宅から図書館のサービスを受ける機会が増加している現在においては、通常よりもさらに速やかな対応が求められる。
- ・ツイッター（Twitter）やインスタグラム（Instagram）等のSNSを活用した新たな情報発信ツールを検討し、図書館情報を利用者のみならず、未利用者に対しても広く周知することが必要である。

○図書館環境の充実について

- ・館内については、話をしながら活動できるアクティブゾーンや読書に集中するためのサイレントゾーンを設置するなど、多様なニーズに応じて、誰もが利用しやすい環境整備が必要である。
- ・他の公共施設で予約図書資料の受け取りができる工夫や、地域特性に合わせた館ごとのきめ細やかな開館時間の設定など、地理的かつ時間的に区民のライフスタイルにあったサービスの設計の検討を進めるべきである。
- ・I C予約棚などの機器や書籍消毒機の設置など、利用者が安心して図書館を利用できる設備の導入が必要である。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため長期休館となったが、同様の事態が生じた場合の対応を検討し、予約資料の配送などの新たなサービスを導入するべきである。

○図書館職員について

- ・利用者に寄り添った対応を実現させ、図書館の継続的な利用につなげるために、指定管理者と連携し、図書館司書の充実や、人材育成により職員の高度な専門性を伸ばしていく必要がある。
- ・図書館職員は、図書資料やコレクションについての理解を深め、また地域について知ることで専門性を高め、それをもとに利用者に積極的に提案していく姿勢が必要である。
- ・ボランティア、学校（園）と学校図書館、児童館、PTA、大学と大学図書館、非営利団体、指定管理者とその他の民間企業といった地域のステークホルダーとの連携事業を推進するために区の職員を対象としたプロジェクトマネジメントやファシリテーションなどの研修を積極的におこなう必要がある。

○多様な利用者へのサービスについて

- ・乳幼児の健やかな成長には親子で本とふれあい楽しい時間を過ごすことが大切である。乳幼児の定期健診時のブックリストの配布やボランティアによる読み聞かせ等、関連機関と連携したブックスタート事業の継続と推進が必要である。
- ・児童サービスにおけるおはなし会等の事業は重要であり継続すべきである。加えて、本の福袋など新たな発見があり次の読書につながる保護者向けのサービス提供方法を検討すべきである。
- ・こどもから大人まで、また国籍等を問わず様々な人にとっての居場所としての図書館、また社会のセーフティネットとしての図書館の役割を持つことも必要である。
- ・既存の図書館サービスや施設を組み合わせ「図書館ではこんな経験ができる」という体験型イベントの提案や「自分はこんなにたくさん本を読んだんだ」という読書記録を利用者の手元に残す〈読書通帳〉を導入するなど、児童・生徒が図書館や読書へ興味を持つきっかけ作りが必要である。
- ・読書離れが指摘される中高生を対象に、(1)図書館の場を通したコミュニケーションを活性化するイベント、(2)図書館ボランティアとしての活動、さらに(3)図書館員が中高生のライフスタイルや思春期の悩みにあった資料の紹介など、図書館内で新たなコミュニティが生まれるような総合的な取り組みを検討すべきである。
- ・高齢者、障害者、多文化サービスなど、誰もが図書館サービスを利用できるよう取り組みを推進すべきである。

生涯学習を支援する図書館

○図書資料等について

- ・公立図書館として、ベストセラーのみならず、「多様なコレクションを持ち続ける場」としての機能を維持するべきである。
- ・図書に限らず多様な視聴覚資料についてもニーズに応じた収集が必要である。
- ・外国人、外国語習得目的及び海外情報を入手したい利用者のため多様な言語の資料を

充実させるべきである。

- ・電子書籍については、紙による図書資料との重複や経費等の課題はあるものの、21世紀における非来館型サービスとして期待できるものである。また、電子書籍は、非来館型サービスのみならず、障害者へのサービスや災害時のサービスにも対応できることから積極的に研究を進めるべきである。
- ・小・中学生の関心を引くポップや利用者が作るポップなど、図書館に足を運び本を手にとってもらうような利用者に対する提案が必要である。

○オンラインデータベースについて

- ・オンラインデータベースの充実を図るべきである。
- ・オンラインデータベースの利便性や活用方法についてさらに周知するべきである。

○展示について

- ・江東区には歴史的に貴重な資料が多く存在するために、多くの人に関心を持ってもらうことができる多彩な企画展示を実施すべきである。

○レファレンスについて

- ・区民の学習・研究拠点としても機能を果たしていくためにレファレンスサービスの積極的な拡充を進めていくべきである。
- ・レファレンスサービス自体が区民に知られていないため、広報活動の強化が必要であるとともに、メールによるレファレンスのような新たな取り組みや、パスファインダーの作成・拡充など検討すべきである。

○図書館ボランティアについて

- ・ボランティアの存在と活動内容を区民に周知するとともに、ボランティアに対するさらなる支援や活躍の場を広げる取り組みを検討すべきである。
- ・ボランティア育成に際しては、特に人と本をつなぐ立場として新たな役割を担っていただくときなどは特に必要な研修を実施すべきである。

○交流の場としての利用について

- ・図書館が「人とのつながりの場（コミュニケーションの場）」となるような取り組みを実施するべきである。

地域に根差した図書館

○郷土資料や貴重資料について

- ・郷土資料や貴重資料などをデジタル化し公開することは、(1)効果的な資料利用の視点、(2)資料の劣化や災害に対する資料保存の視点、(3)区の観光資源という視点から重要であり検討すべきである。

○地域との連携について

- ・こどもの読書活動推進のため、学校（園）や学校図書館、児童館、PTA等と取り組みの推進や相互の情報発信等における連携を密にすることが重要である。
- ・区民が学びを深め成果をだしていくため、中川船番所資料館など区内の文化施設等と

連携した講座やイベントの実施や、大学図書館と連携した区民による研究の支援などの取り組みが重要である。

- ・多様なニーズに応えるために、民間企業との連携も推進していくべきである。

○特色ある図書館運営について

- ・地域の状況や、利用実態等を踏まえ、各図書館において、利用者ニーズに即した特色ある図書館運営を推進すべきである。

3 計画策定に向けて

少子高齢化、国際化、情報通信技術の進化など、区民を取り巻く環境は日々移り変わっています。それによる区民のライフスタイルの変化は新たな図書館へのニーズとして現れます。まさに、図書館は社会を映す鏡といえるわけです。

本懇談会においては、区事務局からの図書館の現状や課題の説明を聞いたうえで、「区民が図書館にどのようなことを期待し望んでいるのか」「計画にどのようなことを盛り込めば《目指すべき図書館像》を実現することができるのか」という視点で議論し、最終成果物として報告書をまとめました。

懇談会では、各委員より今後の取り組みの方向性のみならず、具体的な事業提案等もなされたため、すべてを報告書に含めることはできませんでしたが、可能な限り記載した次第です。

本報告書は区の《目指すべき図書館像》の土台となりうるものです。ぜひ、計画を検討する際には、参考にしていただけますようお願い申し上げます。

4 むすび

今回、懇談会の座長として、副座長の斎藤氏に多くのサポートをいただきながら懇談会を運営いたしました。限られた時間ではありましたが、委員の皆様からは、「図書館をもっと発展させたい」という熱い思いとともにたくさんのご意見を頂戴しました。この報告書は、座長、副座長、各委員が意見を述べ、真摯に耳を傾けて議論をおこなった成果物となります。まずは、このように活発な議論をひとつの報告書として取りまとめることができましたことを関係各位に深く感謝申し上げます。

また、この報告書には、図書館サービスの向上のために必要な視点が多く盛り込まれています。今後、本報告書の内容が、図書館ビジョンやこども読書活動推進計画の策定に活かされ、それに基づき施策を推進することで、区立図書館が、区民の皆様の生活をより豊かにする魅力的な図書館となるよう期待いたします。

江東区これからの図書館サービスとこども読書活動のあり方懇談会委員名簿

委員分類	氏名	所属等
学識経験者	小 泉 公 乃	筑波大学図書館情報メディア系助教
図書館関係団体の者	斎 藤 未 夏	東京海洋大学学術情報課長
図書館関係団体の者	関 根 真 理	東京都立大江戸高等学校学校司書
図書館関係団体の者	北 沢 久 美	江東音訳サービス代表
図書館関係団体の者	小 松 千枝子	読み聞かせボランティア
図書館利用関係者	保 坂 加奈子	区立幼稚園PTA連合会
図書館利用関係者	萩 原 かほる	区立小学校PTA連合会
図書館利用関係者	今 福 裕 桂	区立中学校PTA連合会
図書館利用関係者	赤 塚 淳 作	図書館利用者
公募区民	岡 本 己 枝	公募区民
公募区民	長 田 智 之	公募区民
公募区民	小 野 利 和	公募区民
公募区民	安 井 真知子	公募区民